

ユーザ企業の IT 投資実態に関する調査結果 2009

－「所有」から「利用」への流れが加速－

【調査要綱】

矢野経済研究所は次の調査要綱にてユーザ企業の IT 投資実態についてアンケート調査を実施した。

1. 調査期間：2008年12月～2009年1月
2. 調査対象：国内企業 677社
3. 調査方法：郵送及び Web によるアンケート調査

＜ユーザ企業の IT 投資実態アンケート調査とは＞

本調査では国内企業 677社を対象に、2007年度の IT 投資額や 2008年度～2010年度の IT 投資額見込み等のアンケート調査を実施した。本レポートでは、各回答結果を、業種別、売上高規模別、売上高伸び率別、営業利益高規模別、営業利益高伸び率別、営業利益率別、従業員数規模別、社内システム部門人数別、情報システム子会社の有無別の 9つの項目で集計した。

そのうち、ここでは特に 2008～2010年度の「IT 投資額の内容別構成比」及び「SaaS*(又は ASP)」の業種別、売上高規模別の集計結果について取り上げた。

※SaaS (Software as a Service) : ソフトウェアを、ネットワークを通じてサービスとして提供する形態のこと。

ここでは ASP (Application Service Provider) も同義とする。

【調査結果サマリー】

◆ 「所有」から「利用」の流れが加速

2008年度～2010年度の IT 投資額の内容別の構成比は、「SaaS(又は ASP)」や「運用・保守アウトソーシング」が 2010年度にかけて安定的な伸びが見込める結果となった。ユーザ企業がコアコンピタンスへの集中を強め、IT システムに関しても「所有」から「利用」へのシフトを図っていることが要因と推測する。

◆ 「SaaS」の普及は大企業での導入が鍵

今後の「SaaS(又は ASP)」の構成比は伸びが見込まれるものの、2010年度の「SaaS(又は ASP)」の構成比の見込みが 1.5%と低いため、「SaaS(又は ASP)」の普及には相応な年数が必要になると推測する。その中で、比較的構成比が高いのは売上高規模を始めとする規模の指標が大きな企業であった。今後「SaaS(又は ASP)」は、大企業で試験的に導入が開始され、その効果がはっきりと認識されたときに、普及のスピードが上がっていくと考える。

◆ 資料体裁

資料名：「ユーザ企業の IT 投資実態と予測 2009」
発刊日：2009年3月25日
体裁：A4判 706頁
定価：157,500円(本体価格 150,000円 消費税等 7,500円)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝
設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社 HP から承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報・PR グループ TEL：03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PR グループ迄お問合せ下さい。

【調査結果の概要】

1. 2008年度～2010年度 IT 投資額の内容別構成比の推移

2008年度～2010年度のIT投資額の内容別の構成比は図表1のようになった。

2010年度の構成比が2008年度よりも低いのは、「ハードウェア」、「ベンダ開発又は自社開発」、「パッケージ（カスタマイズ含む）」であった。

また、2010年度の構成比が2008年度よりも高いのは、「SaaS(又はASP)」、「運用・保守」、「運用・保守アウトソーシング」であった。

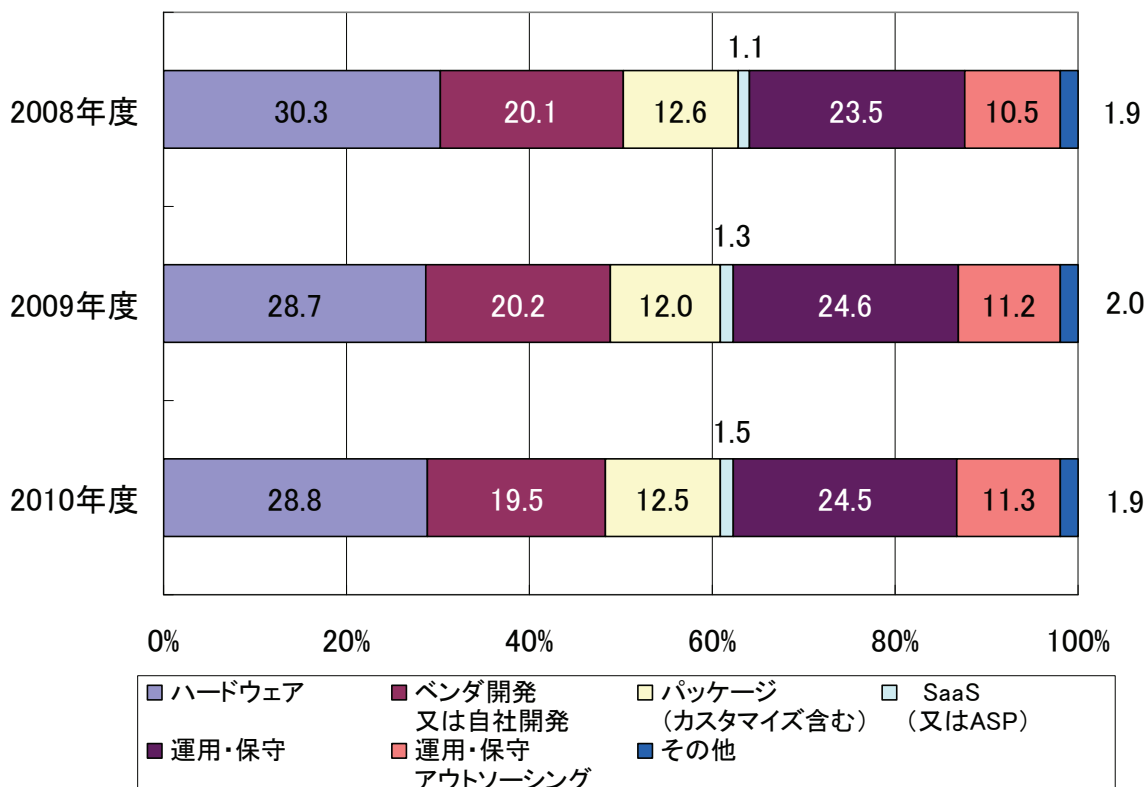
ユーザ企業がコアコンピタンスへの集中を強め、ITシステムに関しても「所有」から「利用」へのシフトを図っていることが、「SaaS(又はASP)」や「運用・保守アウトソーシング」の構成比が増加している要因と推測する。

但し、「SaaS(又はASP)」の2010年度の構成比の見込みは1.5%と低く、その普及には相応な年数が必要と考える。

図表 1 IT 投資額の構成比推移(2008年度～2010年度)

(単位：%)

年度	ハードウェア	ベンダ開発 又は自社 開発	パッケージ (カスタ マイズ含 む)	SaaS (又は ASP)	運用・保 守	運用・保 守 アウト ソーシ ング	その他	合計
2008年度	30.3	20.1	12.6	1.1	23.5	10.5	1.9	100.0
2009年度	28.7	20.2	12.0	1.3	24.6	11.2	2.0	100.0
2010年度	28.8	19.5	12.5	1.5	24.5	11.3	1.9	100.0



矢野経済研究所作成

注1: 集計対象社数 677 社、単回答

2. 2008年度～2010年度の「SaaS（又はASP）」構成比の推移

業種別の2008年度～2010年度の「SaaS（又はASP）」の構成比の推移は表1のようになった。2009年度、2010年度ともに「SaaS（又はASP）」の構成比が増加する見込みの業種は、「加工製造業」、「サービス」、「公共」であった。

業種別以外の集計結果でも、2010年度の「SaaS（又はASP）」構成比が2008年度の構成比よりも低い回答結果は少なく、総じてSaaSの構成比の増加が見込める結果となった。しかしながら、大幅な伸びを見込んだ回答は見られなかった。

その中で、今後の「SaaS（又はASP）」の構成比の伸びが比較的大きいのは、売上高規模などの規模の指標が大きな企業であった。（表2参照）

以上から、今後SaaSは、規模の大きな企業で試験的に導入が開始され、その効果がはっきりと認識されたときに普及のスピードが上がっていくのであろう。但し、それまでには、相応の年数が必要になると推測する。

表1 業種別「SaaS（又はASP）」構成比の推移(2008年度～2010年度)
(単位：%)

業種	2008年度 SaaS (又はASP)	2009年度 SaaS (又はASP)	2010年度 SaaS (又はASP)
加工製造業	0.8	1.0	1.4
組立製造業	1.2	1.3	1.3
流通	1.2	1.4	1.4
サービス	1.0	1.2	1.3
情報・通信	1.4	1.1	1.4
金融	1.9	2.0	1.5
公共	2.7	4.3	4.9
全体	1.1	1.3	1.5

矢野経済研究所作成

注2：集計対象社数677社、単回答

表2 売上高規模別「SaaS（又はASP）」構成比の推移(2008年度～2010年度)
(単位：%)

売上高規模	2008年度 SaaS (又はASP)	2009年度 SaaS (又はASP)	2010年度 SaaS (又はASP)
50億円未満	1.1	0.8	1.0
50億円以上～100億円未満	0.3	0.3	0.5
100億円以上～500億円未満	1.1	1.3	1.4
500億円以上～1,000億円未満	1.1	1.5	1.7
1,000億円以上	2.2	2.7	2.8
全体	1.1	1.3	1.5

矢野経済研究所作成

注3：集計対象社数677社、単回答